

「新しい高大接続」

(メモ)

2014.8.22

I. 基本

- a. 高校教育、大学入学者選抜、大学教育の一体的改革。
- b. 改革の共通目標は、2020年以降、多様な背景をもつ一人でも多くの子どもたちが、自分の力を磨くことを通して人生を拓き、他者と協力して幸福に生きていけるようにすること。
- c. 高校教育の目標は、「多様な生徒が主体的に学び、市民性を身につけることのできる学びの場」の創造、および「基礎学力(※)の質」の確保と向上、「多様性を理解し、主体的に活動する力」の育成、「市民性と社会性」の涵養。
(※)活用力を含む
- d. 大学教育の目標は、「多様な学生が主体的に学ぶことのできる高度な学びの場」の創造、および「主体的に学び、考える力」、「多様性を共有し、他者と協働する力」、「知識・技能の活用力」の向上。
- e. 各大学の入学者選抜の目標は、「主体性をもって励んできた多様な受検者」の採用、および「主体的に学び、考える力」、「多様性を共有し、他者と協働する力」の多面的評価。
- f. 「達成度テスト(基礎レベル)(仮称)」の目標は、「基礎学力の質」についての評価。「達成度テスト(発展レベル)(仮称)」の目標は、「知識・技能の活用力」の評価。

II. 高校教育

- a. 現学習指導要領のもとで、上記諸目標の達成に向けて教育改革を推進。
- b. 目標のさらなる達成に向けて、次期学習指導要領を全面改訂。(たとえば「チームワーク」、「主体的に問題を発見し、解決する力」、「知識・技能の活用力」などをさらに重視。)
- c. 社会構造、就業の仕組み、社会人入学、編入学、大学入学者選抜、大学教育等と連続するよう、各セクターであらゆる方策を講じる。

III. 大学教育

- a. 各大学は、「主体的に学び、考える力」、「多様性を共有し、他者と協働する力」、「知識・技能の活用力」を伸ばすことに資する教育方法(「チーム力」、「問題解決力」等を含む)を開発し、具体的な教育方法を公表する。
- b. 各大学は、十分な生活支援等を行ったのちにもなお上記の教育方法による学習レベルが一定段階に達しない学生については、他の道を勧める。大学の在籍者数と基盤的経費の関係を見直す。
- c. 上記が、社会構造、就業の仕組み、社会人入学、編入学、大学入学者選抜、高校教育等と多様な連続性を持つよう、各セクターであらゆる方策を講じる。

IV. 各大学の入学者選抜

- a. 「主体的に学び・考える力」、「多様性を共有し、他者と協働する力」を多面的に評価する。この点で、教科の知識・技能を基に「知識・技能の活用力」を評価する「達成度テスト(発展レベル)(仮称)」とは異なり、「基礎学力の質」を評価する「達成度テスト(基礎レベル)(仮称)」とも異なる。
- b. 以下をアドミッション・ポリシーに具体的に明記:
 - (1) さまざまな背景をもちながら主体的に励んできた多様な受検者が入学可能な選抜方法
 - (2) 「主体的に学び、考える力」および「多様性を共有し、他者と協働する力」の多面的評価方法(たとえば、面接、討論、論文等の実施・評価方法)
 - (3) 高校の調査書や受検者自身の活動報告書等、受検者の諸活動を記述・評価した文書等の評価方法
 - (4) 「達成度テスト(基礎レベル)(仮称)」の扱い
 - (5) 「達成度テスト(発展レベル)(仮称)」の各問題領域(後述)の成績条件
 - (6) その他
- c. 一般の高校生だけでなく、社会人、編入学希望者、海外在住者、留学生、その他さまざまな事情・背景をもつ多様な受検者が入学できる道を開くため、アドミッション・オフィスを抜本的に強化。
- d. 面接・討論等の評価方法、高校の調査書等の評価方法の開発を推進。
- e. 入学者選抜に関わる人材の育成

V. 「達成度テスト(基礎レベル)(仮称)」と「達成度テスト(発展レベル)(仮称)」の有機的連携

- a. 「達成度テスト(基礎レベル)(仮称)」は、高校の多様化に適応して難易度の範囲を広く取り、基礎学力の質の確保と向上および生徒の学習改善に対応。
- b. 「達成度テスト(発展レベル)(仮称)」は、「達成度テスト(基礎レベル)(仮称)」と難易度に関して連続的に接合したうえで、「知識・技能の活用力」に対応。

VI. 「達成度テスト(発展レベル)(仮称)」

- a. 誰でも受検可能。(高校1~3年生だけでなく、大学生、社会人等も。)
- b. 高等学校等の所属組織を通さずに受検可能。
- c. 従来の教科・科目を超えた知識の活用力の評価のため、各「教科」や「科目」の範囲を超える問題を出題(「問題領域」(仮称)。)
- d. 高校生だけでなく大学生、社会人、留学生等の多様な受検者のチャレンジに対応するため、年間複数回実施。
- e. 記述式の設問を導入。
- f. CBT(Computer-Based Test)を導入。
- g. 1点刻みでなく、段階評価。
- h. 上記を可能とするため、国・民間・学校等が協力して「問題領域」別の「検定型テスト」を開発し、国が認定・評価等を行う。

- i. 各大学の入学者選抜方法が「主体的に学び、考える力」、「多様性を共有し、他者と協働する力」の多面的な評価を中心とすることを前提として、合教科・科目型の「問題領域」テストを中心とし、教科型、総合型を付加。
- j. 「問題領域」は、専門高校、特別支援学校、専門学校、高専、専門大学、社会などを含む多様な受検希望者に対応できるような範囲にわたる。
- k. 受検料、受検場所、CBT設備へのアクセスのしやすさ等について、所得の違い、地域の違い、障害の有無等にかかわらず受検できるよう、十分に配慮。
- l. 2020年度大学入学者についての入学者選抜から(少なくとも全国規模のトライアルとして)実施。

VII. 「新しい高大接続」への課題

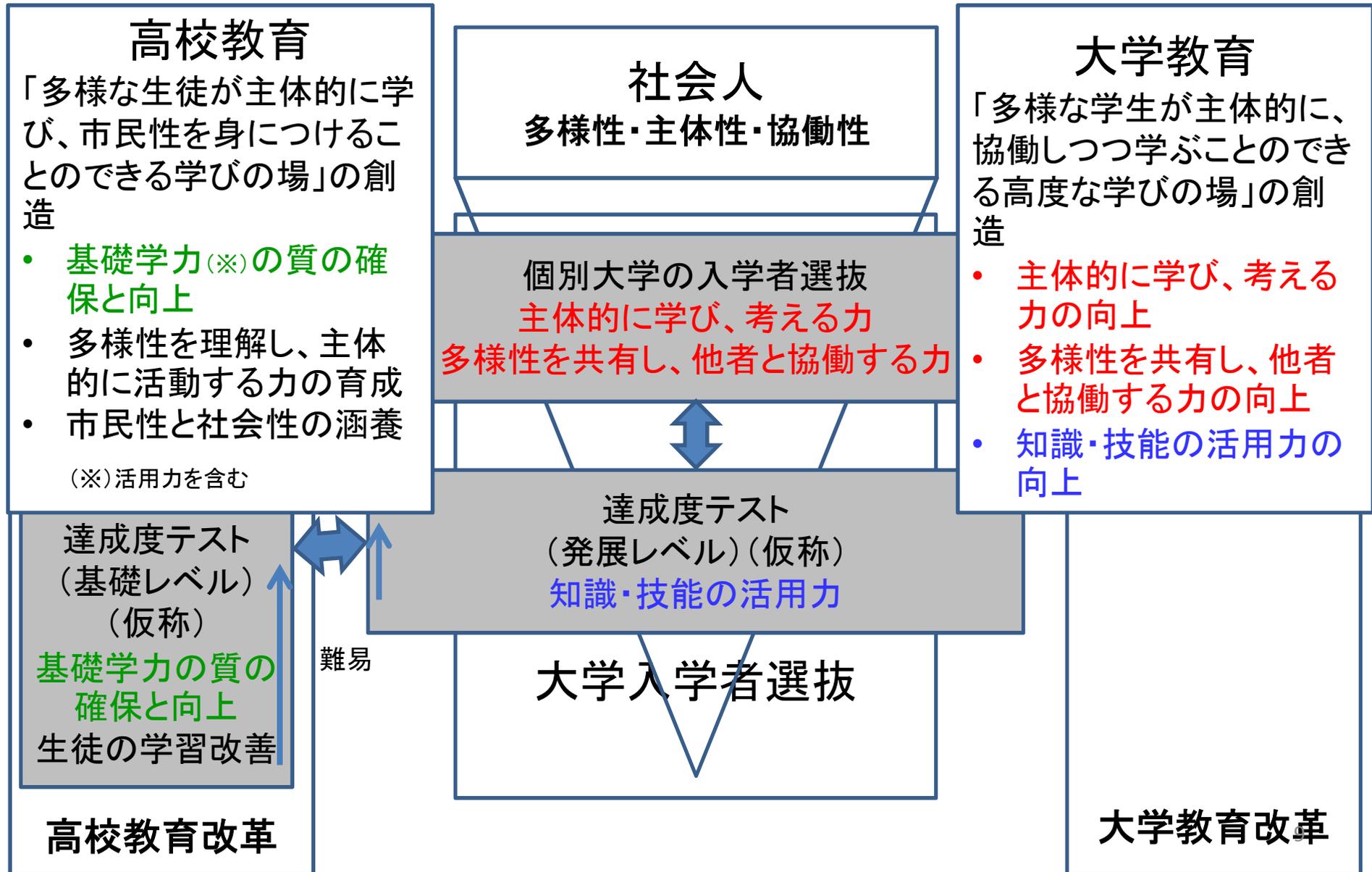
(1) 「新しい高大接続」準備体制を確立し、高校・大学・企業等との連携、および他の教育政策との連携を推進。

- a. 「新しい高大接続」に向けての各大学・各高等学校等（高専、専門高校、専門学校等を含む）との連携の確立
- b. 「新しい高大接続」に向けての教育団体・経済界等との連携の確立
- c. 「新しい高大接続」に向けての準備と、次期学習指導要領・教員の資質能力向上・その他の教育政策との連携の確立
- d. 大学教育・大学入学者選抜・高校教育の一体的改革を前提としたテストの開発と実施に向けての官民協力体制の確立
- e. 「達成度テスト（基礎レベル）（仮称）」と「達成度テスト（発展レベル）（仮称）」の連携体制の確立
- f. 専門家を含む技術的検討タスクフォースの設置（次ページ）
- g. 準備段階での情報セキュリティの確保
- h. その他

(2) 以下の諸課題について、専門家や経験者を含むタスクフォースを立ち上げ、早急に検討。

- a. 大学入学志願者の多様性と主体性を評価する方法の開発
- b. 大学で学ぶ力を高校の調査書、受検者の活動報告書、面接、討論等によって評価する方法の開発
- c. 「問題領域」の設定
- d. 問題の作成方法、蓄積方法、採点方法の開発
- e. CBTの効果的活用の推進
- f. IRT(項目反応理論)等を用いた問題難易度の平準化
- g. 各「問題領域」における設問の構造モデルの開発
- h. 新しいアセスメント方式による評価法の開発
- i. その他

新しい高大接続 高校教育・大学入学者選抜・大学教育の一体的改革 多様性・主体性・協働性



「達成度テスト(発展レベル)(仮称)」関連事項

付2

1. 知識・技能の活用力の評価 ⇒ 合教科・科目型中心、記述式問題の導入、CBTの導入
2. 受検者・受検事情の多様性、受検者の主体的チャレンジを重視 ⇒ 複数回実施、社会人・大学生・留学生等誰でも受検可、高校を通さずに受検可
3. 個別大学の入学者選抜と達成度テスト(発展レベル)(仮称)の連携 ⇒ 個別大学がアドミッション・ポリシーに両者の方法・成績基準等を具体的に記述
4. 高校多様化・大学多様化への対応 ⇒ 広範な難易度をもつ達成度テスト(基礎レベル)(仮称)と広範な成績評価を行う達成度テスト(発展レベル)(仮称)の接続により、基礎学力を広範囲に担保
5. 個別大学の大学教育*・入学者選抜方法**との連携 ⇒ アドミッション・オフィスの充実、面接・討論等の評価方法・高校の調査書等の評価方法の開発の推進、達成度テスト(発展レベル)(仮称)の活用支援、入学者選抜に関わる人材の育成
 - * 多様性・主体性・協働性を重視した教育の場の創造
 - ** 面接、討論、高校調査書等の評価、アドミッション・ポリシーの書き方と実効性、当該大学の新しい教育内容との関係、その他
6. 技術的検討、情報セキュリティへの留意

